知事広聴（東部地域）議事録

開催日時：令和６年９月 11 日（水）15 時 30 分から 17 時
会場：三島商工会議所
出席者：鈴木知事、望月広聴広報課長、県民 10 名

（望月広聴広報課長）

本日は、お忙しいところ知事広聴に御参加いただきありがとうございます。

私、本日の進行役を務めさせていただきます、静岡県広聴広報課長の望月です。どうぞよろしくお願いいたします。

まず最初にお断りでございますが、本日の会議録につきましては、個人情報を除くなど編集をした上で後日、県のホームページにて公開をさせていただきますのでご了承を願います。

また本日カメラで動画を撮影しております。動画全編と、短時間に編集した総集編を県のホームページで後日公開予定でございますけれども、皆様にはそうしたカメラ、またマスコミとかも入っておりますけれども、皆様にはあまり意識せずざっくばらんに率直なご意見を頂戴できればというふうに思っております。

開会にあたりまして、知事からご挨拶を申し上げます

（知事）

皆様こんにちは。

本日知事広聴ですね、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

この知事広聴につきましては、県内各地のですね、皆様からその地域の実情や課題をお伺いをすることによって、私達がする県政にですね、反映をさせるということでございます。

できるだけざっくばらんに皆様と語ろうということで、今回 10 名程度の皆様にこうした車座でですね、ご意見を伺うという形にさせていただきました。

ぜひ、今日は気軽に、普段思っていること、ご意見等ですね、教えていただければというふうに思っております。県内は各地域内、賀茂、東部、中部、西部と広いわけでございますけれども、こうした地域に出向きます移動知事室を、今年は今月の 5 日から東部を皮切りにスタートいたしました。東部地域ってのはですね、いろんなポテンシャル、潜在力がある地域だなというふうに感じておりましたけれども、改めて、まずそのことを実感をしております。ぜひ、こうした東部のポテンシャル、潜在能力を活かしてですね、さらなる地域活性化へ向けて力を尽くしていきたいと思います。

今日は皆様からですね、忌憚のないご意見をいただきそれをまた県政に生かしていきたいと思います。なかなか全てですね、お答えできかねるかもしれませんけれども、今日回答できなかった分についてはですね、後日、しっかりと県の方から回答させていただきたいと思っております。

今日は限られた時間ではありますけれども、どうぞよろしくお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。

（望月広聴広報課長）

それでは次第に従いまして進めてまいります。
ご出席の皆様につきましては、おひとりおひとり紹介したいところではございますが、お時間に限りがございますので、名簿を配らせていただいております。そちらでご紹介に代えさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。
では、意見交換を開始したいと思います、ここからは、まず県政に関するテーマを二つ、発言者の皆様にご提供させていただきます。私の方からお名前をお呼びいたしますので、着席のままご発言をいただければと思います。大変恐縮でございますが、時間が限られておりますので、お1人1分程度でご発言をお願いできればと思います。
まず一つ目のテーマでございます。
昨今、物価の高騰が続いている中、皆様がですね、日々の暮らしの中でどのようなことをお感じになられているかということについて教えていただければと思います。
こちらの問につきましては、A様、B様、C様、D様の４人に御意見をいただければと思っております。

（A氏）
私は皆さんの中でも一番弱い立場かと、いわゆる下の方という意味で、派遣社員で独り身で、本当に給料が低いんです。賃上げもない、ほぼ無い状態です。
その状態で物価が下手すると1.5倍ぐらいになっていますよね。
特に食費です。エネルギー、水道等を含め、とてもですね、生活できる状態じゃない。
最低賃金1,000円で普通１日８時間、月20日で賃金を計算し、そこから税金が引かれていくと、独り身だと貯蓄はもう難しいですね。
もちろん車も買えないので、公共の交通機関を頼ることになるわけですけれども、公共の交通機関がどんどん廃れてしまっている。通勤もとても不便な状態なんですね。これから仮に50代半ばまで何とか仕事いただけるとして、そこから先どうやって自分が生きていくのか、そうですね、命を断つしかないのかなと、ちょっと悲しく思う瞬間があるんですね。
もちろんそれはちょっと極端な話になりますけれど、おそらくこの状態だと、どれだけ生活保護の方が増えるのか、それは個人の問題なんですが、もっと広く考えたとき、とても子供を産みたいと思えないんですね。お金が掛かりすぎて、自分たちの生活でいっぱいいっぱい。そうすると何が起こるかというと、県外に出てしまう。よりよい給料を得られるところ、そして子供の教育環境が良いところ。近くで言うと神奈川とかへ出てしまう。
高校までこちらに残られても、大学以降はもう県外に出てしまって戻ってこなくなってしまう。そうすると今度は県内の人口が減ってしまう。税収も減ってしまって、すごい悪循環で、これを断ち切れるのかっていうと正直県政としてできることは少ないと思っていて、ここで今日お話しさせていただく際に何をどうお伝えしたらいいのか正直まとまらない、本来、国で考えていただくようなことをお話ししました。ただ、実際にそういうレベルで生活している人も一定数いるということを知っていただければなと思っています。ありがとうございました。

（B氏）

Ｂと申します。今日は知事ありがとうございます。
大体Ａさんがほとんど、全部話していただいたんで、私の場合はちょっと具体的ですけれども、主人はサラリーマンをしています。10 年以上給料が上がっていません。
この辺りはね、テレビでもすごく聞くことだと思うんですけれども、実はこの東部地区っていうのは、農業も盛んですし、わりと地産地消で手に入るものが多いですね。私も直接農家の方々からお米ですとか野菜を手に入れるルートがかなりたくさんありますので、さほど感じたことはなかったんですけれど、ここに来てですね、じわじわとその１．５倍って話もあったんですけれども、かなり物価高っていうのを感じるようになってきて、ふと通帳残高を見たとき、えって、驚愕するような金額になっていました。
３月にシニア起業をしまして、自分で会社を立ち上げました。っていうのは、私実は伊豆半島ジオパークの、知事に顧問になっていただいたんですけれども美しい伊豆創造センターの会員になりまして、ジオパークのジオガイドをしているんですけれども、Ａさんが言ったように、ＳＤＧｓを意識して、公共交通機関を利用したツアーというと、特に東部地域でやっていきたいと考えたときに、ないんですね。
主な公共交通機関がないという地域はまだまだあるので、自動運転ですね、やはり裾野とか沼津とか大都会で考えられていることなので、過疎地、高齢者が多いところこそ、その自動運転の交通網をこの東部地区の方、特に高齢化が進んでいる地域が多いので、その点に力を入れていただければと思っております。

（Ｃ氏）
私はもう年金生活者として限られてる年金の中で、今非常に食料費その他物価が上がっておりまして、どこを切り詰めるかということになると、やっぱり食費を詰めるしかないものですから、その辺で、奥さんが大変苦労してるんじゃないかなというふうに思います。
また電気代等ですね、燃料代も車があるものですから、必要があるものですから、生活にどうしても必要なものですので、その辺が一番ネックっていったらおかしいですけど一番家計に響いてるのじゃないのかなというふうに考えます。その辺で特に物価高っていうことに関しては、そんな形で私の考えることはそれぐらいです。以上です。

（Ｄ氏）
だいぶ物価が高騰していますので、普段の会話の中でここが安いねとかそういう会話が最近増えてきたように思います。私は沼津ですが、実家は三島にありまして、親が、母がちょっと認知症で父が介護していますけど、父も高齢で車を手放して欲しいんですけども、やはり公共交通機関、バスの本数が減っているし、タクシーを呼んでも実際来ないということで、なかなか父が母の送迎をするために車が手放せない。こういった公共機関、現状どんどん減っていくということで住みにくい生活になっているということを感じます。物価高が続くなかで、電気代の高騰で、電気代を節約するために早く寝ようと考えたり、無駄遣いをやめようかなとか本当に物価高が生活に直結してるように感じます。

（知事）

共通して、皆様やっぱり今の物価高が生活を直撃をしているというお話をいただきました。

確かに今までほとんど日本はですね、インフレ経験せず来たわけですけれども、ここへ来て物価が上がっていくと。一方でですね、それと合わせて給与収入が増えていけばいいんですけども、そちらがついていかないということで、非常に国としても大きな危機感を持っております。

私達も国と連動してですね、いろんな物価高騰対策というものを行ってるわけですけども、なかなかこれずっとやり続けるというのも大変なんで、やっぱりいかに賃金や収入が上がっていくっていう好循環を作り出していくかということが非常に大きな国としての課題だというふうに認識をしてます。今、最低賃金をですね大幅に引き上げるとか、いろんな手は打ち始めてますけどですね。これが本当にですね、有効に効いてくるまでには、時間もかかりますし、本当にそれぞれの生活者の皆さんにですね、大きな影響が及んでいるということですね。私も痛感をしております。

何とか国とまた連動しながらですね、県としてできることをやっていきたいと思います。

そうした中での、もう一つ課題として出てきた公共交通の問題でございますけれども、これは実は私この前任の浜松市長時代ですね、非常にこの問題が大きな課題としてのしかかっておりまして、ご存知のとおり浜松市というのは 12 市町村が合併をいたしまして、実は伊豆半島より大きいんですね。伊豆半島より 140 平方キロぐらい面積が多くて、市の全体の面積の半分がですね、過疎指定を受けている、そういう市でございまして、当然のことながら町場はともかく、そういう地域がですね、どんどん路線バスがなくなって公共交通がなくなっていくと。何やるかっていうとですね、地域バスって走らせるんですね、税金 0 円でバスをですね、仕立ててそれを路線バスとして使ってもらうけども、路線バスがなくなるというのは要は需要がないからなくなるわけですから、当然地域バスもですね、極めて乗車率が低いということで、税金である意味空気を運んでいるような状況でございます。

しかしそれがどんどん増えていると、それが持続可能性がないですね、税金はやっぱり限りがありますので、もう最後はですね、先ほど自動運転の話もありましたけれども、住民が住民同士で支えようとする共助型交通、これしかないなというふうに思って、いろいろそうした研究、取り組みをしてまいりました。

で、これがですね、こういう浜松の悩みをお伝えしますと、全国の地方都市ですね、いやうちもそうだうちもそうだと。やっぱ皆さん同じ悩みを抱えてる。

で、仲間を作ってですね、活力ある地方を創る首長の会、知事、市町長がですね、320 ぐらい入って大きな会なんですけども、そこで、これ国に提案していこうよということになりまして、国土交通省への提案活動があってですね、それをすごく応援してくれたのが、菅元総理でございまして、最近皆さんいろんなとこで見聞きすると思いますけど、ライドシェアでですね、取り組みが、これは国の規制改革なので、欧米で非常に普及しているウーバーね、そういう仕組みを取り入れるっていう規制改革の取り組みがありますけども、私達が考えているライドシェア、バスやタクシーすらない地域、ここをどうするかという、これをそういう意味で今、国が進めているライドシェアと、もう一つ、自治体ライドシェアとか公共ライドシェアって言われてるそういう公共交通がなくなったような地域で、これをどうやってですね、普及させていくかと。

私が考えたのは、今みたいに車に固定したドライバーを雇ってみたいな、これなかなかもう現実的ではないです。皆さんが乗ってらっしゃる車で、気軽に人を運んであげるという、これ普通に田舎行くと、隣のおばあちゃんを時間あるからちょっと連れてってやるわって、ボランティアでやってるケースも多々あるんですが、これちょっとその場所によっては白タクって言われちゃう。だけどね、もう全部それをボランティアでお願いしますって言えないんで、ワンコインでですね、ちゃんとそういうものガソリン代ぐらい出るようにしてあげましょうとか、今それをですね、普及させていくということで、静岡県その先端を走っていくということで、実は今日の午前中に、静岡県地域公共交通活性化協議会っていうんですけど、その中に、ライドシェア専門部会を立ち上げまして、今、県内の全市町がですね、35 市町が参加をしておりまして、そこに国の機関とか、あるいはバス事業者、タクシー事業者、こういう人たちにも入っていただいてですね、これからですね、もうそういうことを実装していきます。県内では浜松市ですね、私が手がけたとき、荘内地区というもうやっぱり路線バスがなくなった地域で、この取り組みが始まりまして、自治会を中心にですね、もちろん高齢の方もいますけど、まだ元気な人はいっぱいいますから、そういう人たちがですね、元自治会長やってた方が今中心になってですね、その取り組みが始まりました。そういう人たちが自分の車で、地域住民の方の移動をお手伝いをするということをやってます。

もう一つですね、この伊豆半島では東伊豆町の岩井さんっていう町長さんがね、やってますけども、岩井さんもこの取り組みに目をつけられまして、東伊豆町が大変なんですよ、タクシー５台しかいない。５台しか。

結局観光客の人来てもですね、でもすぐタクシーはほとんど使えない状態で、住民の人の移動も大変だということで、東伊豆町でですね、この取り組みが始まってまして、こういうものをこれから全県に広げていきたい。

こういうお互いを支え合うという仕組みでないとですね、もうこれがなかなかですね、今までのような公共交通をこれからもどんどんと定義しても難しいんじゃないかと、ぜひ静岡県が先端を行きたいなというふうに思います。

そしてもう一つが先ほど出ました自動運転でございまして、これは非常に私は可能性があると、公共交通と合わせてですね、まだ少し時間かかるかもしれませんけれども、もうそろそろ実用化に向けた取り組みを進めます。

アメリカのですね、テスラがやってるんですね。もう時速 100 キロ超えでいろんなところを自由自在にいろいろ走り回って、こういう自動運転はまだまだですね、未来かもしれませんけれども、例えば路線バスの管理今までと同じ路線バスのルートですね、決められたルートを自動運転で走っていくのは、かなり技術的にもですね、もう問題なくできるようになっておりますし、例えばそういうルートをですね、時速 20 キロぐらいで走ってるんですね。何か障害があってもすぐストップできたり、仮に事故があっても重大事故には繋がらない。

さっき言ったあの庄内地区ですね、浜松の、その地区で既にスズキさんとソフトバンクドライブというあの孫さんのですね、そういうところが一緒になって、路線バスと同じようにするという実証実験を入れてます。

この自動運転実証実験は県内各地で行われておりますので、おそらくこういった路線今までの

バスの代わりですね、決められた路線を自動運転の乗り物が走るという時代ははそう遠くない。もう実用可能だと思いますね。

これであれば、いろんな地域でその地域に合わせたですね、浜松の水窪っていう一番長野県に近い山奥のところで、業務実証実験をして、それをですね、本当にちっちゃいラストワンマイルですね。例えば、駅から自宅とか、バス停から自宅とかそういう商店からとかそういうのですね、自動の車で運んであげましょうと。大体時速 5 キロから 10 キロだと歩くのよりちょっと早いだけですけども、それでも十分乗った感はありますし、これであれば、何かちょっと事故があってもですね、ほとんど重大事故に繋がらない。

だからもうそういう過疎地域においてですね、今の技術で十分可能な自動運転もありますので、そうしたものがあろうかと思いますし、いろんなですね、地域特性に合わせて、これから自動運転、これ県はいろいろ取り組んでますけども、やっていかなきゃいけないと思っております。いずれにしましても今後、人の移動とかですね、これが非常に大きな我々の課題と、また皆さんがですね、捉えながら良い交通のあり方について、研究していきたいと思っています。私から以上です。

（Ｂ氏）

自動運転に関係あるかもしれないですが、裾野市にトヨタのウーブンシティがありますね。

そうするとそこから三島駅とか裾野駅とかへ自動運転のバス、タクシーが来るって私たちは期待してるんです。

（知事）

そうですね、まずはおそらくウーブンシティの限られた中であればですね、いわゆる交通規制がほとんどないんで自由に走り回れるかと思うんですが、あの中に入ればいいわけですけど、公道に出ますといろんなまだ交通規制がありますので、自由に行ったり来たりっていうことについてですね、まだ実用化というのは少し時間かかるかもしれませんけども、いずれはですね、そうした未来都市地域を繋ぐとか、そういうところを自動化されたという形で移動するとかそういうことを可能になってきますし、さらに進んで未来の空飛ぶ車も研究されてます。

これスズキさんが今一生懸命ですね、スタートアップの企業が一緒になって、それぞれ車のですね、これからもう僕ら生きてないかもしれませんけれども、近未来にはですね、いろんなそういう交通、新しい乗り物や交通がね、生まれてくると思います。

県も新しいそうした先進技術がですね、できるだけきちっとセンサーを高くしてですね、きちんとキャッチして、県がやれるところという形にしていきたいというふうに思います。

（望月広聴広報課長）

それでは二つ目のテーマについてご提供させていただきます。

この二つ目のテーマにつきましては、Ｅ様、Ｆ様、Ｇ様、Ｈ様、Ｉ様、Ｊ様の皆様にご発言をいただければというふうに思います。

二つ目のテーマにつきましては、今全国的にも人口減少が大きな課題となっておりますけれど

も、本県におきましては若い世代の方が、県外の方に出ていって、戻ってこられないということも課題の一つになっております。こうした若い世代の方がですね、静岡県に帰ってくるためには、何が必要というふうに考えていらっしゃるかご意見をお聞かせいただければと思います。
　それではＥ様、よろしくお願いいたします。

（Ｅ氏）
　富士市では、「移住定住応援団」がありまして、移住前後の困りごとをサポートする。空き家のリフォームの相談だとか、地域で移住定住を応援している活動、こちら鑑みまして静岡県が行っている定住イベントと並行しまして、若い世代も、静岡県に帰ってきてもいいよと少しでも思っている人の窓口を作ったらよいのではないかと思います。若い世代が静岡県に戻ってくるために必要なことはたくさんあると思うんですね。まずはこちらの声を聞いて、これから必要な支援を考えていくことが必要ではないかと考えています。以上です。

（Ｆ氏）
　ずっと東京に住んでましたんで、今長泉ですけど、その経験から言うと、まず若い世代というのはどのぐらいっていうのかちょっとはっきりしないんですけど、20 代から 30 代まで静岡に帰る機会っていうのが仕事や転職の機会。30 代から 40 代になれば子育ての機会で戻る機会。その後を考えると多分介護とかになると思うんですけども、20 代 30 代でいうと、仕事の仕方も変わっているのでリモートワークであったり、そういうことを後押しするために通信環境の整備とかをどんどん推し進めていくと。それから時短とかも言われてますんで、もしかしたら一つの仕事だけではなくてＷワークとかどんどん進んでくると思うので、そういうことをどんどん画期的にできる県であるといいかなと思います。
　子育てに関しては教育の質というのが多分問われると思うんですけども、学力だけではなくて人間性を高めるとかそういうところも重要な教育のスキームになってくるかなと思います。
　あとは医療施設、子供が多分医療機関にかかるための仕組み作りとか静岡はこども病院があったりするんですけどそういうものを、東部であったり、西部であったりっていうのが必要なのかなと。
　あとは若い人たちが地域に参加する機会をもっと作るべきかなと。地域に参加するっていうのはスポーツ、あるいは祭りであったりこうした行政等のイベントも含めてどんどん意見を聞ける機会で、やりがいがあるというか自分がその中で存在感を示せるような仕組み作りっていうのが必要かなと思ってます。以上です。

（Ｇ氏）
　まず若者が戻りたい、静岡県に住みたい、私は静岡県東部の清水町です。
　愛着心とは、主体的に関わった幼い頃からの経験である。祭りがテキヤや業者に託されている現状は、市民に帰すべきものだと認識を改め、県が指導するべきところとして市町村に対し、祭りを市民主体のものに帰していこうではないか、ふるさとらしい例えば、団体を募り、仲間内の近所で何か屋台を出したりだとか、そういった経験を子供たちにもさせる。

そして、県内で、Ａさんがおっしゃった、でも私は民生委員をしておりますので響いたんですが、派遣社員が非常に多すぎる。

きちんと企業と、労働者が一対一で雇われる仕組みでなければ、この先伸びていかない、派遣は中抜きがある。当然です。会社ですからね。なので、静岡県が以前任期付で雇っていた職員を本務にしたご経験がおありだと思います。一部の業者に限ることなくやったと思いますが、それが民間では行われておらず、派遣料が多過ぎ、派遣社員が搾取されてしまっている現状を憂いています。また、残業代が適正に支払われていない業種が多く見られます。こちらの是正はぜひしてください。

労働者は無駄に働いてお金を支払われないところを甘んじて今働いておりますけれども、それぞれにとても不安を抱えています。フレーム単位での支払いは当然であり、法律に準じた働き方をできるようにしてあげてください。

若者の労働力だけではなく、高齢者に至るまで、その部分はとても問題が大きいものとなっております。その業種は、医療業界にかなり多いと伺っております。まずは現状を調べ、残業代が支払われていない組織、しかも業種、事業に関しては是正を促してください。

あとライドシェアなんですが、あちこちで今試されているということですけれども、やはり高齢者の方を見守っていく中で、とても重要なことだとは思います。ライドシェアを自治会の経験者に絞ってしまわずに、誰もが手を挙げやすいような仕組みを、例えば自動車学校に行って、その免許を得てくるとか、ちょっとした工夫があれば誰でも手が上げやすいのかなというふうに、先ほど知事のお話を伺いながら思いました。

以上です。

（Ｈ氏）

うちは子供２人いて２人とも地元にいますんで、そういう意味では、やっぱり静岡の良さですね。

特に首都圏に近いし、豊かな自然環境もあるし、観光地産業も大きいし、そういうのよく知ってるんですね。ですから、静岡に戻ってきたいという気持ちはかなりあると思うんです。

それもやっぱり若い時に静岡に戻ってくるチャンスっていうのは、先ほどちょっとＦさんも言われてました。子供が生まれて、家でも建てようかとかいうときに、地価が安いから静岡県に戻ろうかとかね、そういう話はあるんですね。

何といってもやっぱりＵターンには就業環境が鍵だと思うんですよ。働く場所がなければ戻ってくる場所がないですからね。そういう意味でも、この辺のところを何とかしなきゃいけないと思うんですけど、やっぱり勤務形態が変わってますから、リモートが増えたりですね。毎日行かなくてもいいとか、時間のこととかですね。

そういう意味ではもう、現在の会社に勤めたままでもね、静岡に住んで仕事できる環境も増えている。私が勤めてる会社では、もうかなりの人が田舎に戻ってリモートやってます。特に関東近県みんなそう。そういう環境が増えてますから、そういう新しい環境をうまく利用して、するようなことをアナウンスするとか、そういうことが必要かなと思っています。

もう一つはですね、やっぱり東部地区は、先ほどから言ってますが京浜地区に近くてですね、

通勤圏内です。実際、私も 15 年新幹線で通って来ましたから、そういう意味では東部地区の良さっていうのはかなりあるんですね、中部や西部に比べたら、働く場が近いという意味では長泉町が良いですよ。長泉町はＵターンではないんですよね。Ｉターンなんですよ。いわゆる首都圏の人が来る。

それはなぜかというと、皆さんご存知だと思います。多分子育てとか、そういうものの支援策が多分県内ナンバー１ですね、全国で５本の指に入ってるんですよ。

そういうところをやっぱり若い人のためや、そういうところももうちょっと、やっていただければうまくいくのかなと思います。以上です。

（Ｉ氏）

私も若い人が静岡に戻ってくるには、少子化対策、子育て支援だと思っています。子育て支援で成功した明石市の真似をしていただきたいと思っています。私は若い頃結婚してましたが、不妊治療がすごく高くて保険適用ではなかったし、当時は補助もなかったので、途中で諦めてしまいました。

子育て支援というと、やっぱり子供が生まれてからの話が多いですけれども、不妊治療費を静岡県全部やりますよぐらいのことをやれば、若い人が戻ってきて静岡県で産もうってなるのではないかと思いました。

姪が 29 歳で、４歳を筆頭に男の子３人年子で育てているんですけれど、実情を聞いたんですけれども、やっぱり子育て支援金を出してほしいということと、あとオムツとか生理用ナプキンを無料にしてほしい。あと保育料、高校の授業費を無料にして欲しい。

医療費も市町村によって無料のところもあれば、1 回 500 円かかるところもあるので、市町村別ではなく、県内は全部無料にして欲しい。県内の遊園地に、子供からは料金を取らず、無料にしてほしい。

非課税世帯ばかり現金支給しないで、子育て世帯は全部平等に扱って欲しい。非課税世帯は医療費も保育料も無料で、税金を払っていないくせに、皆苦しい中頑張っているのに差別は良くないよね、とこれだけは伝えてくれと言われました。

姪はまだ子供が２人だけのときに保育園に預けていたんですけれど、月に６万円かかる。それだとパートで働いても全部保育料で手元に残らないんですね。私も今は独り身なので、正社員でお給料をいただいてますけれど、ベースアップがあって 1 万 3,000 円上がったんです。月々。ですけれど住民税は 7,000 円上がって手元に 6,000 円しか入らないんですよ。1 万 3,000 円で喜んでたのに、なんなんだろう。1 万 3,000 円欲しいんですよ、こちらは。何かそういう、提示された金額はもうほぼほぼもらって手に入らないとおちおち生活もできないというところでちょっと困っています。よろしくお願いします。

（Ｊ氏）

私、今は会社辞めてしまったんですが、以前三島から東京の浜松町まで新幹線通勤してました。その中で会社の同僚、当時 10 人ぐらいいましたので、ちょっと酒の席にはなるんですが、いろいろ話したときに、大体私の同僚っていうのがやっぱり埼玉が多いですね。飯能とか、あの辺か

ら通ってくるということで、いろいろな話があったときにまず私の場合の通勤時間は大体ドアツードアで２時間ですよ。飯能の奥から通ってるやつは大体３時間から下手すると３時間半、往復６時間の待ち時間だと。だから、Ｊさんの方が時間が短いと。

もう一つは、これセコい話なんですけども、会社から通勤手当が出るんですが、それはですね私の場合は三島から新幹線使うと大体９万 5,000 円ぐらいになるわけです、毎月。それが大体会社の補助が半分しか出ないということで、簡単に言うと毎月５万円ぐらいの持ち出しになる。

で、これについては私の昔の会社の同僚に、彼は静岡から品川まで新幹線通勤していて、そんな話をしたら、彼の場合には全額出ると。ですから会社会社によって控除に対する考え方の違いから、高い安いってことは言えないと思うんですが、まずはその時間と金。

次に聞いたのは、ここに質問は若い世代というふうに限定されてるんですが、その時聞いたのは、大体中堅世代ですね、30 後半ぐらいの男性女性を含めて、こういう聞き方をしました。

もし、今後、三島に住もうと思うきっかけ、何かありますかって聞いたときに、やっぱり非常に先ほど皆さん言われたように自分が住んでいる周りの環境等々もあるんですが、やっぱりその男性に多かったのは、家は欲しい、家を建てたい、それが一戸建てなのかマンションなのか、そうなったときに、埼玉飯能あたりでも当時は結構すると。当時私が三島でマンション買ったんですがそのときの値段より高いですね。

ですからそういう意味で言うと、家が欲しいけど家が建てられないし、さっき言ったように通勤してもいいんだけど通勤するとお金が足りないと、例えば埼玉の飯能から通ってる場合には、全額会社から通勤手当が出ますから、そういう意味ですごい難しい。

ただ、お金の問題等々を除けば、三島っていうのは魅力あるところですよ。例えばさっきお話したように、東京まで山手線圏内は大体 2 時間で通えますので、時間だけを考えたらお金の話を除けば、１時間というのは決して長い距離じゃないんで、こんなこんな遠くから通いたくないっていう思いをみんな持ってませんでした。

やはり魅力あるっていったとき、魅力って何だろうというふうにそのとき考えたんですが、やっぱりその人、人それぞれ違うと思うんですね。その人にとってはこの住む魅力なんですかっていう。

ただ、私自身が三島に魅力を感じるっていうのは、なんとなく住んでると東京の雰囲気も感じられるし、あと伊豆半島の方から例えば海の魚のものあるいは山のもの等々が簡単に入手できるっていう立地条件というと変な言い方かもしれないですけど、それがあるんで、非常に住みやすいですし、ただ、いろんな補助等々について私の比較はしてなかったのかわかんないんですけど、やっぱり例えばそのときに話したのは、ここから新幹線通勤する場合は、埼玉県の所沢に住んでる方ですね。そのときに所沢の話をしたときに言われたのは、当時かれこれ 20 年ぐらい前に何かがあるので一緒にはどうかわからないんですが、結構そういう福利厚生面で、こんなことからあんなことがあるという話を聞いた覚えがあります。

ただ、具体的にこうだったよっていうお話できないんですけど、そういう中で、比較がいいのかどうかはともかくとして、三島と限定しちゃいけないのかもしれないんですが、この東部地区に住むと東京まで、今先ほど言ったように飯能から３時間かけてる人間が、そうだ、三島に新しい家を建てても住もうｔという魅力が何だろうかなという部分がちょっと今ここでお話できな

いのが申し訳ないちょっと残念なんですが、そういうふうに今思っています。以上です。

（知事）

はい、多岐に渡って大変いろんなご意見いただきまして誠にありがとうございます。

今、移住定住、最初お話しましたけれども、静岡県の移住相談センターを東京の方に開設いたしまして、たくさんの皆さんに活用していただきまして、ご存知だと思いますが、静岡県は４年連続で、移住希望先日本一でございまして、実際に今、移住者が非常にですね、増えている状況でございます。特にこの東部地域は、先ほど皆さんからも話あったんですが首都圏との距離感が非常に近いし、そういう意味では、非常に移住定住のポテンシャルが高い、そういう地域だというふうに思ってます。

最後にＪさんからね、重要なポイントがありまして、三島の魅力はなんですかね。

東京の都会の匂いも感じるし、一方で、自然も豊か。実はこれ、今、国がすすめてるんですよ。

田園都市国家構想が実はこれでございまして、どういうことかっていうと、田園都市ですね、つまりこれもともとは大平首相の頃、今から 1980 年ですけどずいぶん前に構想されたんですけども、非常に暮らしやすい自然豊かな地方都市に、都会の利便性、都会の便利さとか生活のしやすさというものをそういう田舎の都市に実装させることによって、都会の良さも、都会のように便利で、しかも普段は自然の豊かですね、快適な空間で暮らせる、これが田園都市国家構想です。

当時はただ実際どうやってその地方都市にですね、都会の利便性を実装させるか方法がなかったんですね。ところが今、デジタルとか先端技術がある。ですから今、この新しいデジタル田園都市国家構想といって、デジタルや先端技術の活用でですね、都会のその利便性とか効率性をですね、田舎の都市に、それをですね、実装させて、それでですね、田舎に住んでいても都会のよさがある、そうすると、都会に住むより絶対にいいわけですよね。

今言った三島がまさにですね、田園都市ですね。普段は非常に環境の良いところで、でも都会のようなですね、利便性も感じられるということで、実は静岡県のそういうポテンシャルは私は非常に高いというふうに思ってまして、今静岡県もそうした田園都市を作っていこうという取り組みしてますけども、

それが今はですね、２拠点居住、２拠点生活。ですから、そういうものが、実際にそういうふうに反映されてきていて、もう先ほどお話あったように今コロナの後にですね、リモートワークが当たり前になってきて、今、本当にその現場に行かなくても通常の仕事ができると、あるいは必要があれば、東京行って、普段はですね、環境の良い地方で暮らすというこういうですね、活動の仕方で国も今２拠点居住をですね、これを推進していこうとまったくですねやっぱり引越して移住しちゃうっていうのは抵抗があってもですね。東京と地方にですね、二つ拠点あることが、非常にハードル低くなるわけですね。こういう生活の仕方ってこれからすごく僕はですね、広がってくると思います。

実は私自身が去年、市長をやめてですね、東京に会社を設立しまして、まさに２拠点居住、２拠点生活してたんですね。普段は浜松でも活動しますし、週に何日かはですね、東京に行って、東京で活動すると。浜松、西のはずれですけれども、十分ですね、新幹線で１時間半ぐらいですからそういう活動が十分できると静岡県ってのはもう、そういうことができるし、東部ってのは

まさにですね、日常的にすることができるので、ぜひそういうですね、取り組みをですね、していきたいなというふうに思ってますし、いろんなまた、ポテンシャルですね。

都会から持ってきたような、今ベンチャー企業とスタートアップですね、もう東京に拠点なくてもいいんじゃないかっていうことで、九州の嬉野ですね、佐賀の嬉野温泉と、ものすごくアイデアマンの旅館の若い経営者がいまして、いろんな新しい取組をしていて全国的に有名なんですけども、そこはやっぱり取り組みの一つですね。

旅館の部屋をリノベーションしまして、そこにベンチャー企業のサテライトオフィスが入った。

そこの中もうすごい話題になってですね、もちろん普段温泉に入れるような快適な環境、そういう仕事の関係でいろんな人たちがそこに来るわけですね。

つまり旅館も活性化をするし、ビジネスにも繋がる。これを今度僕、伊豆半島でやりたい。その社長を今度県のアドバイザーに迎えましたんで、彼のいやもう全然嬉野なんかよりはるかに伊豆の方がポテンシャルがあるって言ってくれてまして、例えばそういう取り組みをしてですね、どんどん都会からですね、若い人をひっぱってきまして、スタートアップが元気なときって、ものすごく地域経済が成長するんです。

これ世界的にも全部共通してですね、相関関係にありますんで、スタートアップがですね、盛んな地域の県内全部スタートアップ推進地域にしようと思ってますけども、特に東部地域はですね、首都圏からそういうの引っ張ってきます。

活性化をしていきたいとそういう新しい取り組みをですね、どんどんしていきたい。

あと、やっぱりもう若い人がね、進学で出てくのは、これある意味しょうがないと思ってですね、この人口減少時代ですね。ぼこぼこ大学潰れるからちょっとそういう時代じゃなくて、ですから、一旦出ていっちゃっても戻ってきてもらう。

そのためには、もっと若いうちからその地元に対する愛着を持ってもらうようなことをしなきゃいけないので、僕は大学生だったら遅いと思って、私はね市長時代に２年間で全部の高校を回るというローテーション作りましてね、１年生に講義するって、２年で全部回るとですね、一周してまた新しい人がいるかっていうのがあると、大体３か年ぐらい回りましたけれども、それで何やるかっていうと１年生浜松こんなすごいこんな人皆さん知らないけど、見てもらって、こんな産業があります。

市はこんなことしてますよっていうこと、特別授業でやらせてもらう。、やっぱ皆さんがやって、これからこの町の将来の担い手として、もう進学についてはしょうがないけどね、みんな戻ってくれと。都会より絶対こっちの方が、可能性もあるし、チャンスも多いぞってそんな話するんですよ。意外とね、感想を見ると、子供たちの反応は非常に良いです。

こういう若いうちにそういう地元の良さをですね、知ってもらうと、さっきお祭りの話にこれはすごい大事だよ。浜松まつりですね、町を挙げてのお祭りがありまして、僕もまだ物心つくかつかないっていうのはずっとでてですね、もうほとんど浜松の人たちって、浜松まつりがアイデンティティでして。

まず若い人ですね、祭りに参加するでしょう。その時ですね、地域のコミュニティを引っ張りこまれるわけです。あれはだいたい町内単位の祭ですからね。そうすると祭りの役員やるけど、次はね、消防団の団員削減どっぷり地域に浸かってます。年齢が来ると自治会の役員ということ

ですよね。浜松は自治会の加入率 96%もう圧倒的に全国１位で、なんでそうなのかと思ったら、僕はやっぱりあのお祭りが原点かな。

やっぱこういうものがですね、大切にし、いろんなそういうことをぜひですね、やっていきたい。静岡っていうそういう意味では、さっき言ったポテンシャルが非常に高い地域になりますので、新しい取り組みをどんどん入れながらですね、UターンもＩターンもですね、本当に進めて行きたい。

それとあと子育て支援についてはですね、これ僕あんまりね自治体間の競争があってはいけないと思います。あっちがやるからうちもやらなきゃいけないとかね、今全部一番問題になってますね。

この自治体間のサービス合戦、サービス競争でお金のあるところはいいんですけど、財政的に厳しいところはどうするのか、だから本当はこれはやっぱり国が全部一律ですね。しっかりやると、財政力の弱いところはしっかり国や県が支えてくれるような仕組みにしていかないとですね、やっぱりあんまりですね、自治体間でサービスで差があるとか、良くないことですし、そのサービス合戦に税金をどんどん使うっていうのがですね、これは私は良くないというふうに思ってます。

国でもやっぱりそういう問題意識、例えば給食の無償化だったらこれもぜ全国一律にやられるべきでしょう。今そういう議論が進んできてますので、これやっぱり他にもしっかり提供していきたい。

いずれにしましても、静岡県は私は充分ポテンシャル高い地域だと思ってますので、いろんなですね、相手をするとそういうこと若い人が定着できるはずです。

（望月広聴広報課長）

今、テーマを２つ提示させていただいて、お話をさせていただいたわけですが、事務局が思った以上にですね、皆様のお話がたくさん上がってて、いろんな方面のですね。

ここからテーマを特に設けない形で少しお話ができればというふうに思います。皆様さらにこの機会に話したいことであるとか、それから東部地域の課題だと考えてらっしゃるようなことがおありになるようでしたら、少しお話をいただきたいと思いますけれども、いかがでございましょうか。

（Ｂ氏）

先日、東南海地震注意、というのが初めて出たのですが、静岡県は防災、富士山が噴火するとか、東海地震が起きるとか、昔からすごく災害に対して、特に地震に対して敏感に代々やって来られて、日本の中でも対応しているっていう私も子供の頃から思っているんですが、東南海、特に私今ジオガイドをやっているので、地震とか災害、特に防災に関して、活動にしていこうと思っています。

東南海（トラフ地震）注意（情報）に対して、私の周りで、伊豆半島ですが対応が市町でバラバラだったんですね。施設を閉めるところあり、平気でやっているところあり、伊豆半島でさえバラバラで、それを 15 市町の首長さん達は、統一指揮しないといけないねっていうのが新聞に

出ていましたけども、伊豆半島だけではなくて、中部、県庁のあるところとかは、危険だと思うので、静岡県全体で統一していただきたい。何かそういうもの、ハザードマップ等の情報をできる限り早く形で発信していただきたいなって思いますのでお願いしたいです。

（知事）

わかりました。大変良いご指摘だというふうに思います。今回初めて南海トラフ地震に対する臨時情報が出されて、もう私たちも本当に大変だったんですよ。私も久しぶりに浜松に行こうとしたら、「駄目です。県庁にいてください。」って、１週間ずっとステイしてたんですけども。じゃどうするんだと、日常生活、どこまでどういう制限するんだっていうことが非常に曖昧なんですね。

だから地震に注意しながら、日常生活をやってください、って意味はわかんないっていう感じでしょうね。

こういうイベントやって良いのか、やっていけないのかとか、そういうことなんですね。

あんまりルールが定まってなかったんです。ですから今、国ももう１回ですね、これについて検証作業をしてますけども、県としても検証を始めてまして。

これから起こらないことが一番ですけど、またこういう事が起こった時に、ある程度ルールって何だということについてね、おっしゃる通り、やっぱりきちっと検証して決めておかなきゃいけないいうふうに、考えるところであります。

（Ｆ氏）

防災、いいですか。私ごとで、東日本震災とか神戸の県庁を見たりする機会があったんですけど、震災が起こった後、まちづくりにものすごい差が出まして、瓦礫撤去であったりその後、地域によって例えば津波が来たエリアでも、仮に沼津としたら、ショッピングモールなどは全然大丈夫だけど昔の商店街は全滅した、とかそういうのもあって、その地域の力がそのまんま後のまちづくりに直結しているという感じたんですけど、静岡県としてそういうことがないように、今からハザードマップもできて、その後というのを考えてもいいのかなという気がします。

（知事）

これも大変的を射たご指摘で、というのは震災後ですね、復興をどうするか、実は震災前からもう作っておこうと、それが大きな流れでして、起こってからじゃ遅いんです。

それはおっしゃるように、やはり東日本震災などで我々が得た教訓なので、起こる場合にですね、どうするかということまで考えると、では震災起こった後のＢＣＰというか、いろんな業務継続計画だとかについても、震災前から作っていうのがですね、今の流れでございますがそれを県としてもやっていく。

東日本震災の時はですね、浜松は大船渡という所を支援をずっとしてました。あれだけの震災でしたから、ある所をきちっと流れで長年支援していく、対口支援と言いますが、あの時は静岡県は釜石市と大船渡市とあと二町担当していて、本当は僕は県内を４つに分けて、それぞれの地域にですね、長期間にわたって支援をしていくということをやれば良かったと思っていますが。

調べたら、釜石市は鉄の関係で大阪が大きな支援をしていたが、一番支援の手薄な大船渡市に、「浜松市はお宅を支援しようと思いますが、いかがか」と伝えたら、もう二つ返事で「お願いします」ということで、実はもうずっと職員をですね、沢山派遣して、大船渡の町の復興もやりました。

大船渡は小さな町ですよ。土木とかそういう専門家がほとんどいないですね。それじゃ大船渡の町の、津波が全く来なかったところは無傷ですが、来たところは壊滅ですから、ゼロから町を作らなくてはいけないということで。でも職員がいないので、全部浜松市の職員が入って、復興計画を作って、地元説明会も行ったんですね。それで、復興をずっと支援し続けて。お陰で大船渡は町が復興したわけですが、事前の「対口支援」という枠組みが必要だということが最近言われるようになりましたけれど、やはり大きな災害になった時は、そういう取組みをしていかなくては、なかなか支援が手厚い所はスピーディに復興できるが、支援が行き届かない所は復興できないとか、人材に困る、そういうことが無いように。これは国が全体的なコントロールをする中でやるべきことだとは思いますが、おっしゃるように、災害が起こる前から準備をするということだと思います。

（Ａ氏）

ずっと静岡県は地震が来る、富士山が噴火すると言われてきて、県としても長く長く対策を練られてきたと思うし、毎年抜け漏れがないように対策し訓練してきたと思うが、私は南三陸の方にボランティアに伺っていた時に、会社を流されたという元経営者の方に話を伺う機会があった。

その際、「自分は静岡県出身です。地震が起きることが前提で、子供の頃から毎年毎年９月になると防災訓練があって、真面目に取り組んでいました。それでも、たまたま東京に行った時に地震に遭ったが、自分の帰る所が無い、何も情報が無い、それ位の恐怖を覚えた。ただこの地域（東北）も、チリ地震などでそういう（対策を）していたんですよね。」（と伝えた）。（その方は）「もちろん、いつか地震が起こり津波が来ることは分かっていて、その地域の人も皆真面目に毎年訓練をしていた。自分の会社も訓練していた。

ただ、実際に地震が起きて津波が起きた時に、どういうスピードで、どういう優先順位で何を決断していかなきゃいけないのか、ということを想定した訓練を全くしていなかったから、実際に物事が起きた時に、もう後は後悔しか残らなかった。」と言っていました。義理のお母さんと従業員１名を亡くされて、なぜ自分はあの時に、まずここから決断しなかったのか。もう初めからそういう想定をして本来、訓練というのはしていなければならないものだと、それを自分は知りましたというお話を聞いて、機会があればそれを誰かにお伝えしなければならないと。もちろん職員の方は在職中に災害が起こらなければ一番なのですが、実際にはかなりのスピードで優先順位をつけて次々決めていかなければならない。そういうことを念頭に置いた訓練をされると、今までともしかしたら少し違ったものが見えてくるのではないかと思い、この機会にお話しさせてもらいました。ありがとうございました。

（知事）

いや、もう本当おっしゃる通りでして、これだんだん風化していくんですよね。結局、意識が

あったとしても、もう何十年も前の話で、やっぱり東日本震災についてももうだいぶ風化をしてきましたので、なかなかね、身近で起こるっていう実感できない、だんだん実感できなくなって、結局、そうすると段々段々津波が危険な地域にどんどん人が住むようになったり。

もう来ないんじゃないかみたいな、そういうことになっちゃうんで、やっぱり常にそこはですね、必ずいつか来ると、これ間違いなく南海トラフはプレート型地震って周期的に繰り返されますから、プレートが動いてるということは、必ずこれはもう間違いなく来るって、それがいつになるかわかりませんけれども、あるいはそのどのくらいの大きさなのかわからないけれど、それを想定してやっぱり常に訓練を怠らないようにしなきゃいけないんですけども、これは本当ね、市長として見ましたけれどすごく意識の高い自治会長がいるとすごい実践的な訓練をするんですね。でも、その人が辞めちゃって別の人がやると、今までやってきたことがどんどんどんどん手抜きになってきたり、本当にこれ難しいなというふうに思ってます。

それをどうやって啓蒙し続けてきても、なかなかこうすればいいっていうのはないんですけどね、やっぱりこの前みたいな、ああいう臨時情報みたいな機会にですね、改めて地震について認識し直すことが大事だと思っておりますし、知事になって感じたのは、本当に静岡県というのは広いですから、地域に合わせたですね、防災をやらなきゃいけないということなんですよ。

浜松では地震が起こった後にですね、一条工務店さんが 300 億寄附してくださって遠州灘の防潮堤を作ったわけです。これ土を固めてですねダムと同じような設計で作ったんで、半永久的に機能するんですけども、最大級の津波が来てもですね、ほぼほぼ人が住んでる地区までは大きな被害は防げるが、それ以外のところをどうするか、これだけ広い静岡県ですからね。

例えば伊豆半島防潮堤を完備してくれと言われても、結局観光で生きてますから、そんなもの建ててですね、海が見えなかったらね、観光地が成り立たないということになると、この遠州灘みたいな防潮堤はできない。津波避難タワーを作っていこうと、それをですね、普段どうすんだって言ったらですね、こないだ土肥町で新しい防潮堤をですね、普段は観光施設として人が来て、観光に資するんですね。いざとなると、そこが避難施設となり 1200 人ぐらい収容できる。こういう知恵があるんだなと。それぞれの地域に合わせてですね、防災対策をやってかないといけないわけです。

それとやっぱりハードだけでは駄目なんで、やっぱり最後は、いち早く、もう何も持たずに逃げて、全ての子供たちが助かったっていう学校と避難が遅れて被害が多く出た学校が対比されてましたけど、やっぱり、まずはとにかく逃げるのが大事ってことですかね。なかなか大変ですけど、県にとっても大事なテーマでございますね。しっかりとやっていきたいと思います。

（H氏）

全然話が違いますが、中部とか西部には政令市があって、大きな都市なのでそれなりに活動してますよね。東部ってのは市町が多くて、やっぱりそれぞれの地域で福祉だとか、子育て支援とかレベルがいろいろある。これから人口が減ったときに、こんな小さいところで競争したって意味がないと思ってるんですよ。そういう意味で何か 20 年ぐらい前の合併みたいなそのウェブサイトをちょっと眺めたんですが、うまくいっている自治体もあるしそうでないところもある。

それについて、県としては今後どういうふうにするのか伺います。

（知事）

これはねなかなかね、県が全部上から合併しろって言うのは、地域のこれは国もそうで、実は平成の大合併で全国がまだら模様になって、何となく全国的にはですね、合併こりごりだっていう空気になっちゃって、国ももうまた次の合併って言い出せない。

あのとき浜松はですね、静岡市が政令市になったんで、政令市にならないといけないとなって、本当は横の合併する予定だったんですね。磐田からですね、環浜名湖構想っていって、浜松を中心に湖西から磐田ぐらいまで合併すると100万都市だから、僕もそりゃそうい合併だったらいいんじゃない。スズキさんとかヤマハさんは、みんなあのエリアで活動してて、一つの経済圏ができあがると。

そしたら、逆に長野県の県境まで合併しちゃったんですね。最初、何考えてんだと思ったんですよ。

僕は旧浜松市に住んでましたんで、当時国会議員していましたけども、なんでこんな選択したのかと。えらい大変な所いっぱい抱えちゃって、これどうすんだろうと思ったんですね。

逆に、自分が市長になってみたら、これはすごいことやったんだなと、もう全国の縮図、国土縮図型都市って言われたんですね。確かにここの都市の経営がうまくいけば全国のモデルになると思ったんですね。

本当に長野県境の、もうものすごいへき地からですね、町、もう本当に中心街ですね、いろんな地域が一緒になって、いろんなあらゆる自然とあらゆる産業が一緒にあるってことで国土縮図型都市、国を縮めてるんですかって言われたことがあるんですけども、やっぱり合併したことによって、ダイナミックにいろんな取り組みができるようになったのは事実です。

例えば林業なんかでも、僕はいろんなですね新しい事業を何件かしましたけれども、その中で、合併しないで、ちっちゃな町だけで林業組合をやっていたら今悲惨な状態になってる。

これは、もちろんそういう大きくなることによってメリットあるんですけども、一方でやっぱり合併して、この地域はどうなるんだっていう、そういう懸念もあるので、なかなか上から目線で合併はできないですけども、でも、これからやっぱりおっしゃるように、もう人口は必ず減ってくし、ちっちゃい自治体はですね、もう職員の採用もできなくなってる。

だから、自分の自治体で全部の業務がこなせなくなってる、あるいは施設もどんどん老朽化してきて、それをどうするか、そうすると、共通に、やっぱり人も共通で使う、活動してもらうとか、施設も共通で使うとか。そういうふうになっていかなきゃいけないんだけど、なかなか行政境とするとそういうの難しいんですよね。これからの大きな課題ですけれども、なかなかですね、県とか国が合併しろとは言えないので、やっぱり皆さんにこれからどういう町、地域にしていくか、考えていただかないといけない。今日県会議員さんも来られてるんで。

これはもう大変な課題、僕はできれば、ある一定の規模の基礎自治体の再編をしていくと、実は県っていらなくなるんです。そうして初めて道州制の新しい国の形に作り替えることができるんで

僕は理想としてはそういうのがいいなって、自分がこの前書いた本だとそう書いたんですが、ただ、なかなかこれは国全体をどうしていくかについて、皆さんの考えもありますんで。

（H氏）
ありがとうございます。

（C氏）
まず知事にお願いしたいことは、伊豆縦貫道の大場のインターまでを複線化してもらいたい。
特に観光シーズンと朝の通勤、また夕方の通勤がね、渋滞が発生をして、我々生活道路として使ってるわけなんですけど、なかなか渋滞に巻き込まれて思うように活動できない。まずその辺が一つお願いをしたい。
もう一つはですね、縦貫道の開通によって、函南町とか伊豆の国市ってのは通過の都市になっちゃったんですよね。それで町の中空洞化しちゃってます。
特に道の駅、ゲートウェイ函南ってのがあるんですけど、この下り線は必然的に非常に入りやすいわけですよ。だからまあ何とかトイレタイムで入っていっちゃうんです。
それで、今度は上り線で帰ってきて、伊豆で観光してきて、これもう一度入ろうと思うと、なかなか取り付け道路が悪くて通り過ぎてしまう。そういう状況が多々見られるわけですよ。
だから、特に、帰りにお土産を買ってこうなんていうお客さんがあそこ寄りたくても、なんかいまいち寄れなくて、車で走って通過しちゃうと、そんなこともあるもんですから、まず上り線の取り付け道路を改良してもらって、そこへ入ることによって、農家の取った野菜だとか、町内の商店が作った商品だとかっていうのを買っていただけるっていうことで、そうすれば、町の中も、町の中の商店もあるいは活性化できるんじゃないかな。そんな形で、ぜひその二つの案件を、今日は知事にお願いしたくて来ましたので、よろしくお願いしたいと思います。

（知事）
わかりました。これ国の事業なんで複線化も含めて、伊豆縦貫道の早期開通はこれ悲願なんで、またいろんな皆さんと一緒に国にしっかり陳情していきたいと思います。
函南って僕はいいとこだと思うんですけどね。実はうちの父が 50 年ほど前に南箱根ダイヤランドで土地を買いましてね。結局家は建てなかったんですけども、時々ダイヤランドに来てまして、50 年前に来たときと今を比べても、見違えるように街が発展してますし、すごくいいとこだなというふうに思うし、外から見るとそんなに函南って悪くない所だと思うんですよ。

（C氏）
それでもね人口は増えてないんですよ。
大体３万 6、7,000 人というところで、ここはもう 10 年以上そんな状況に落ち着いてまして。
街の中でも昔からあった店が、もう結局売り上げが上がらないとか、それから後継者の問題もあったりして、もう存続できてないというような状況で、だんだん街の中も寂れてきてるような状態があるもんですから、一つの道の駅ゲートウェイ函南を中心に、そこにいる人たちに滞在時間を少しでも長くしていただいて、そこで消費して食べ物を食べたり、お土産を買ったりしてもらう。

それには再三申し上げてますけど、上り線の取り付け道路をうまく誘導できるようにお願いしたいと思います。以上です。

（G氏）
防災訓練の日なんですが、これ実害が出ているので、真剣に考えて見直していただきたいことがあるんですよ。防災関連の日は、いろいろなところで設定されてると思うんですが、真夏に開催されるところが多くて、これ、本当に高齢者の方々が倒れて、私の母も熱中症で倒れました。報道でも出ているんで報道機関の方もご存知だと思うんですけども、本当に真夏の熱中症警報が出ている、アラートが出ている当日に開催されてるのが実情です。
なので、これやっちゃ駄目なんです。っていうことがわかっているのに開催されてるので、これ本当に全部の首長さんと真剣に検討してください。改善をお願いしたいと思います。
ふじのくにの防災モニターもしておりますし、消防団も入ったり、民生委員として活動もしていますけれども、本当に早急に検討してください。お願いします。

（知事）
はい。そうですね、猛暑ですから。

（G氏）
救急車を呼んでいるので、当日に。

（知事）
これ実はそういうご指摘をほかからもいただいてまして、やっぱりこれ日を変えるべきだと。やっぱり猛暑日、今本当に９月ずっと猛暑日ですから、そういう時期にやってどうなんだっていうそれ確かにご指摘の通りだと思います。

（望月広聴広報課長）
申し訳ございません時間がそろそろ迫ってまいりましたので、皆様から一言ずつだけお言葉を頂戴できればというふうに思います。最後に知事に何かおっしゃりたいことがあればひとつずつということで申し訳ありませんが、短時間で大変恐縮なんですがお声をいただければと思います。申し訳ないです。

（A氏）
預かってきた伝言がひとつあります。私は子供がいないものですから。
昨年かな、一昨年かな、施策レビューでも申し上げたんですけれども、高校の無償化について、ぜひ大阪レベルのものをお願いして、静岡県にも期待したいですが、個人名で私個人の意見ではそれはね、正直公立高校だけに限ってほしいって思ってるんですね。限られた税金の中で、私学に行くのはその方たちの自由なので、私学の助成金なり奨学金なりでそれではやっていただきたい。

公立に関してはぜひ皆さん方へちょっと届けたいなっていうのが、おそらくその方たちはもう関係なく私立の奨学金の話をしてます。私個人としてはちょっと違ってた考えを持っています。

もう一つがこちらに応募する際に書かせていただいたんですけれども、私とても残念に思ってるのは、長泉町の人間なんですけれども、ヴァンジ美術館の支援が得られなかったことがとても残念で。あれだけのコレクションを散在させてしまうことになってしまう。

全くっていうのはあれですけれど、芸術に関するものが少ないですよね。中部には大きな劇場もあるし、県立美術館もあるし、浜松ももちろんそうですけど、県東部ってあまりそういうものがないものですから、観光資源としても良いものであったので、あれを失ってしまったことで観光地としての魅力がすごく減ってしまったし、この地域の子供の芸術性だとか、心の豊かさを養う一つの施設を失ってしまったということをとても悲しく思ってて、もしまだできることがあるのであれば、長泉町自体が本来手を出せればいいことだと思うんですけれど、ちょっとお金のこととかあるものですから、是非県として県東部地区の観光をもり立てるひとつの起爆剤として、広報の仕方を変えればもう少し集客できる施設だと私は思ってます。なので、ぜひもう一度まだ支援の方法があるのであれば何とかもとの状態に、ぜひより良い広報活動をして観光につなげられるようなことをやっていただきたいと思っています。以上です。ありがとうございます。

（B氏）

一つ言いたいことが、伊豆半島ジオパークは、ユネスコ世界ジオパークであるので、静岡県ももっと子供たちにジオ学習、あとはジオパークの中の防災学習として、もっと伊豆半島を利用してほしいです。それを強くお願いいたします。

（C氏）

私は先ほど言いましたから。

（D氏）

自分の話ですが、歴史が好きでして歴史仲間からいろいろ話が出るんですが、簡単に言うと浜松とか静岡とかはお城のある街として景観やシンボル、観光資源となってますけれど、沼津も実際は城下町だったんですけれど今は発展で全部なくなってしまいました。今は駅周辺もどんどん寂れていってますので、昔あったものを取り入れていけば観光資源として東部の魅力になるのかなと思います。

（E氏）

私は女性の働く環境のことを考えておりまして、結婚して子供を産んで職場に復帰しても以前の職場に戻れないということもあります。優秀な方はまったく新しいところに行っても実力を発揮できる方もいます。でもそうでない方もいます。一からまた出直さなければならないのが現状です。そう考えると、結婚はいいんですが、子供はちょっと無理かなと常に感じていて、そのように女性の働く環境に問題があることを多くの人に知ってもらいたいと強く思っています。以上です。

（Ｆ氏）
ちょっと全然違う話なんですけど、県で東静岡のアリーナだったり、浜松の野球場だったりの話が出てるんですけど、スポーツは今、観光と需要と、それから雇用を全て兼ねるようになっていて、今されてるような各市のレベルだと、ちょっと物足りないかなというふうに思います。静岡はサッカー、ラグビーのワールドカップも開いて、東京オリンピックの開催地にもなった。2026年の愛知アジア大会の開催地でもある。スポーツ人材も相当育っているので、いろいろスポーツ局の方でやられてると思うんですけれども、観光として、あるいは空港を利用してアジアの枠をどんどん広げていくようなスポーツを盛り上げる活動を、県としてやってほしいなというふうに思います。以上です。

（Ｇ氏）
私は農業もやっておりますので、農業や畜産、食を守って、水を守っていただきたい。
県立高校、県立田方農業高校にもちょっといた経験もあるんですけど、勤務してたんですけど、卒業生が就職するところがない。受け皿がない。農業や畜産の企業がない。
そこを何かこう、いい感じで作ってもらって、子供たちが就職先にできるように。で、世界中から食べるものを集めるんじゃなくて、静岡県で作れる仕組みをぜひよろしくお願いします。

（Ｈ氏）
私、山梨出身なんですけどね、富士山の事でいろいろと気になってる話なんで、富士山の観光についてですね、何か山梨の方がうまくやってるように見えるんですよ。今度は登山規制の話もありますし、ぜひその辺は山梨とうまくやっていただければと思います。

（Ｉ氏）
さっき一個言い忘れちゃったんですけど、長泉町は少子化対策に成功して子供が増えすぎて、マンモス校になっていて、校舎がプレハブになっているって聞いてるのでそこのところもちゃんとしてあげてほしいなっていうことと、あと沼津市に在住しているので、ゴミ処理場をちょっと新しくして欲しいということと、Ｆさんもおっしゃってましたけれど東部地区にいいスタジアムがないので、私ラグビーが好きなので、ラグビー場とかサッカー場をこちらにも造っていただきたいなと思います。以上です。

（Ｊ氏）
今日ご意見をお願いしますよということで、こういう場を設けられて、それについて異を唱えるつもりはないんですが、県として例えば若者に戻ってきてほしいことに対して、どういう取り組みを考えてます、その件に関してはこういうふうな方向性を持ってます、こういうことをいつからこういうふうにやりたいんです。皆さんどうですかっていうような、俗に言うパブリックコメントを求めるような場をぜひ設けてほしいと思うんです。今日の話は一方的でやすとも知事にそういうお話をした、それはそれでいいと思うんですけど、じゃあ、県としてどういうふうに考

えてるかっていうのを、ぜひ広報していただければと思います。以上です。

（望月広聴広報課長）
最後駆け足になってしまって大変申し訳ございませんが、知事まとめも含めまして。

（知事）
はい、はいお時間的にもう１人づつにお答えするのは難しいと思います。
皆さんからいろいろですね、御意見、ご提言を頂戴いたしました。
ぜひ県でもちろんやらなきゃいけない、やれることもありますし、市町の役割とか、市町がやらなければいけない部分もございますので、そこは整理しながら、市町ともですね、皆様からいただいた意見の中でしっかりと消化をしていかなければと思っております。
私のスローガンは、オールしずおか、幸福度日本一の静岡県にしたいというものでございます。
そのためですね、幸福度っていうのはそれぞれおひとりひとり考え方が違うと思いますけれども、やっぱり素直にここ静岡に住んでよかったなと思っていただけるように、静岡は広いですけれども、どの地域に行ってもそう思ってもらえる地域づくりをすることが大事だなあと思っています。
引き続き、またいろいろと御協力、ご指導いただくようお願い申し上げて、御挨拶にかえさせていただきます。　【終了】